

令和5年度 みしまコミュニティ推進協議会で取り組む事業(案)

～ R5年度予算要求に向けての素案 ～

全住民アンケートでの上位項目(課題)

～現状では満足していなく、これから重要だと思うこと～

1. 見回りなど防犯・交通安全活動
2. 草刈り・河川清掃など環境美化活動
3. 避難・避難所運営・連絡体制など防災活動
4. 日常的な不安や悩みが相談できる場や人
5. 防火・救命講習など消防活動

◆新たなまちづくり組織関係業務

《検討課題1》

★利用しやすい・集しやすいコミセン施設の改修の検討ほか【3か年事業】

～コミセンカフェ構想の検討やそれに伴う支所施設改修の検討～

課題：「4. 日常的な不安や悩みが相談できる場や人」の検討

- 1年目：講演会をきっかけとした住民ニーズのリサーチ
 - ・外部講師を招聘しキックオフ講演会及びコミセン拠点活用方法のヒアリング調査経費
550,000円(講師：スタジオL 代表 山崎 亮氏)
 - ・コミセン拠点活用に係るアイデア発想ワークショップ経費
1,100,000円(ワークショップコーディネート謝礼、チラシ・ツールデザイン、交通費、消耗品費、諸経ほか)
→地域の課題を自らの力で乗り越え解決するため、持続可能な組織づくり等について、スタジオLの山崎亮氏の講演会をきっかけに、特に若い世代から「組織づくり」と「居場所づくり」についてワークショップへの参加に繋げ、5年後、10年後の三島地域について考えてもらうもの。(3か年継続事業)
 - ・先進地視察研修経費
180,000円(バス借上料、高速代、資料代、事務用品、手土産代など)→県内を想定
 - 2年目：リサーチしたニーズからアイデア企画の検討と実践、コアメンバーの募集等
 - ・集しやすい使いやすい施設の検討ワークショップ(新潟工科大学院 北澤李緒氏へ協力依頼済み)
 - ・先進地視察(県内外の先進地を検討)
 - 3年目：コミセン(支所)施設改修要望案の提出、活動を継続していくための仕組みづくり
 - ・施設改修に向けた施設概要の成果品の作成
 - ・施設改修に向けた実施設計を市へ要望
 - ・組織体制(専門部会の役割等)の見直し等
- ※2年目、3年目とも継続してスタジオLから関わってもらう。

R5 予算要求額小計：1,830,000円

《検討課題2》

★安心安全で良好なコミュニケーション促進のための集い(交流)の場の検討、及び多様な情報ツールの充実等の検討

課題：「1. 見回りなど防犯・交通安全活動」
「3. 避難・避難所運営・連絡体制など防災活動」
「4. 日常的な不安や悩みが相談できる場や人」検討

・高齢者へのスマホ等の情報入手・発信ツールの普及促進

スマホよろず相談事業(高齢者等へのスマホなんでも相談、スマホの普及促進ほか)

三島地域の山間地域の2町内会(蓮花寺、逆谷)をモデル地区に指定し、集落支援員が訪問する「健康教室や地域の茶の間」で、参加者ほかにスマホ利用(LINE等)による家族や友人とのコミュニケーション、市からのお知らせや防災情報(長岡市公式LINE登録促進)、その他生活情報の入手ツールの多様化を支援することでスマホ取得の普及拡大を図りたい。

次年度以降、本取り組みを他町内会に拡大し、自ら積極的に様々な情報を入手できる高齢者(障害者)等を増やしたいもの。

【背景】

三島地域の防災行政無線(アナログ電波)の無線局免許がR4年11月末で満了する。

危機管理防災本部では免許更新する方針であるが、機器が古く部品等も製造されていないことから主要な機能の故障により、修理ができず使用不可になることが懸念され、今後の防災行政無線の利用継続について不透明な状況である。

特に、スマホ等のデジタル機器を持っていない情報等の入手が困難な高齢者に対して、行政情報や特に災害時の防災情報の周知手段(ツール等)の確保が課題となっている。

高齢者がスマホを利用できるようになることで、自ら積極的に各種情報を入手する手段の構築・体制が整備されることにより、防災情報等の伝達ツールの一つとして期待できることから、三島地域はもとより近隣の防災行政無線を使用している支所地域の課題解決の取り組みのきっかけとしたい。

・高齢者等を対象とした情報伝達ツール周知、購入促進事業

⇒スマホなんでも相談室の設置(コミセン内に常設：開設日等は検討)

増員するコミセン主事及びシニア・スマホ・アンバサダー(ボランティアスタッフ)が対応

⇒スマホ教室の開催(年3回：R4年度に三島地域で実施した「雷神」)

→集落支援員、シニア・スマホ・アンバサダーが受講生をサポートし、スマホ購入の促進と生活情報や防災・防犯情報を入手可能な長岡市公式LINEへの登録を目指す。

委託料：657,000円(@73,000円×3回×3か所)……3か所：コミセン、モデル地域①、②

消耗品費ほか：50,000円(2町内会×@25,000円)

※R6～R8年度以降、三島全域へ拡大し継続実施する。

(R6年度以降、高齢者のスマホ購入助成事業を検討：加賀市の取組を参考)

⇒シニア・スマホ・アンバサダーの募集、育成

スマホ教室のサポート従事等を通じて、個々のスキルアップを図る

シニア向けスマホ等の操作研修の実施：150,000円

会員証等の作製(候補：ベスト、帽子、バッジ等)経費：30,000円(10人×@3,000円)

⇒Wi-Fi設備の設置

スマホ教室受講者及びスマホなんでも相談室利用者のポケット負担軽減ほか、全住民アンケートで利用しやすい施設にするためには「施設内Wi-Fi(フリースポット)の設置が必須」との意見から、Wi-Fi設備を設置し、高齢者だけでなく学生等の若者のコミセン利用の促進を図る。

→当面の間、ポケットWi-Fiでスマホ教室等の対応をして、施設改修に合わせてフリースポットに移行したい。

ポケットWi-Fiリース料 84,000円(月額7,000円×12月)

R5予算要求額小計：971,000円

⇒Wi-Fi 設備の設置：コミセン施設のフリースポット化

↳コミセン施設改修の検討が進む中でR6年度以降に具体的に検討

※将来的なコミセン施設の改修に合わせて、施設全館(1F、2F)にWi-Fi(フリースポット)の設置について、複数年かけて「検討課題1」の中で議論・検討していく。

【参考】Wi-Fi機器等設置経費：長期継続契約(リース)で市民センターを参考に積算した場合

・機器リース料	36,000円(@3,000円×12月)	・設定業務委託料	33,000円(見込み)
・配線工事(初年度)	165,000円	・回線初期費用	22,000円
・通信費(通信料+接続料)	10,000円	・フィルタリング更新手数料	5,500円

R6年度以降検討額 計271,500円(見込み)

《共通経費》

・外部から招聘する会議出席者の費用弁償

(みしまコミュニティ推進協議会の構成員以外から、新たなまちづくり組織の会議に

招請した方への費用弁償等。(例)PTA等の保護者、関係町内会長、その他)

20,000円=延べ40人(5人×8回)×@500円

・事務用消耗品 一式 80,000円(模造紙、付箋、サインペンほか消耗品、お茶代等)

・コミセン主事(1名増員)

⇒新たなまちづくり組織の事務担当、スマホよろず相談事業(高齢者等へのスマホなんでも相談、スマホの普及促進)、将来的にコミュニティ交通や農地(畑・山林)の管理等のコーディネートほか業務も検討

R5 予算要求額小計：100,000円

◆R5 年度予算要求額合計：2,901,000円

◎コミセン主事1名増員分の賃金等積算明細

・賃金	1,644千円	・期末手当	178千円	・通勤手当	48千円	
・社会保険料	320千円	・雇用保険	30千円	・労災保険料	8千円	
					計	2,228千円

◎コミセン主事増員賃金等：人事課予算？ 2,228,000円

【R6 年度以降に検討する項目案】

・スマホ等が使えない、購入ができない方へ別の行政情報等の伝達手段の検討

⇒緊急警報ラジオ(FMながおか)、固定電話への避難情報等配信サービス、その他

・利用しやすい、くつろげる図書館の検討(クールシア・ウォームシア等)

・ワンボックスカーを配備してもらい、コミセン利用希望者の送迎や見守り活動に活用

◇取り組みを継続する活動【いきコミ等で各部会が実施】・・・・・・・・案

★「1. 見回りなど防犯・交通安全活動」みしま安全見守り活動の拡充

- ・防犯、交通安全資材等
- ・研修会講師謝礼
- ・事務用消耗品費

※今後は、三島交通安全協会や三島地区防犯組合及び各支部(町内会)との連携を模索し、地域全体で子どもや高齢者等の安心・安全の確保について検討。

★「3. 避難・避難所運営・連絡体制など防災活動」

- ・防災安全大学受講者への受講料の一部助成
- ・防災研修会の開催（講師謝礼）
- ・参考図書購入、事務用消耗品費など

※防災安全大学受講経費助成の継続と修了者の組織化の検討

★「4. 日常的な不安や悩みが相談できる場や人」

- ・生涯学習セミナー
- ・サークル支援、作品展等
- ・会食交流会おめさん元気らかね、多世代交流会みんな食堂
- ・地域の茶の間支援

★「2. 草刈り・河川清掃など環境美化活動」

- ・環境美化活動：三島中央公園除草等掃除

☆その他

- ・図書コーナーの運営
- ・児童クラブ、みしまこどもの広場の運営委託
- ・三島地域体育祭委託事業（防災体育祭）
- ・その他